

## 令和5年度「学校評価」結果の報告

本年度の「学校評価」は、生徒、教職員の他、保護者の皆様や学校評議員の方々からも、それぞれのお立場から本校の学校教育活動を評価していただき、その結果の分析を通して成果や課題を明らかにするとともに、必要度・緊急度の高い活動、また教育効果の高い活動や改善が必要な活動を洗い出すことで、次年度の学校教育活動の活性化につなげることを目的とし実施しました。

今年は12月から翌年1月中旬にかけて調査を行い、1月下旬にその結果がまとまりましたので、分析結果と今後の対応等について報告いたします。

### 1 全体として

生徒・教職員の他、保護者、学校評議員の計1058名に調査を依頼し、回収率は約93%981名と多くの方々から御回答いただきました。大変ありがたいことと考えております。

4段階の評点による平均値で見ても、各項目について概ね学校の状況や対応を支持・支援してくださる意見が多かったと捉えております。

しかしながら、項目ごとの比較においては思いや捉え方に違いが見られるものもあります。これらの結果を軽視することなく真摯に受け止め、改善への努力をしていかなければと感じております。

### 2 分析結果について

生徒及び保護者アンケートの結果では、75%の項目において前年度同等またはそれを上回る高い評価でありました。特に生徒や保護者の学校行事に関する項目については、コロナ禍からの学校行事の復活が評価を頂いたと考えております。

学校評議員アンケートの結果においては、「学校は挨拶について適切に指導している」や「学校は整容について適切に指導している」といった項目に

において、昨年度以上の高い評価をいただきました。「あまり思わない」の項目が交通ルール・ホームページ発信の2点ありましたことについては、学校としても重く受け止める必要を感じております。

全体と比較して「あまり思わない」「思わない」の割合が高い項目は、生徒においては「節電」「部活動環境」「情報機器」、保護者の皆様においては「情報提供」「連絡体制」、教職員においては「文武両道」「多忙化解消」の項目が挙げられました。

### 3 今後の対応について

学校といたしましては、昨年度までの学校評価の結果を踏まえ、コロナ禍からの日常生活の回復を視野に課題の改善に向けて様々な取組を進めてきたところではありますが、その成果が評価に反映されたものもあれば、そうでないものも見られました。

学校が取り組んでいるつもりでも関係の皆様には伝わらないとすれば、その取組は不十分であり、周知の方法も含め見直す必要があると考えます。

また、アンケート項目によっては単に数値が高ければ良いというものではなく、「学校はいじめ防止に適切に取り組んでいる」や「学校は体罰のない指導を行っている」などの項目は、関係者の皆様の御協力をいただきながら、組織的な取組を一層充実させることで、否定的な回答ゼロを目指すべきものととらえております。

自由記述からの指摘については、体育館の雨漏りや部室・部活動のあり方に関する項目について生徒・保護者双方から要望が寄せられていることを認識し、また、情報提供・連絡体制の強化について解決に取り組むたいと考えております。

今後、各項目の結果を更に詳細に分析し、関係分掌において今後の対応を検討し改善に取り組んでまいりたいと思っております。

また、生徒・保護者・教職員・学校評議員の質問項目についても比較検討がしやすいよう項目位置・項目内容の変更を考えております。

今後も、家庭や地域社会と学校との相互理解に基づいた学校運営を通して、地域に根ざした学校の一層の推進を図ってまいりたいと思っておりますので、引き続き本校の教育活動に対する御理解と御協力をいただければ幸いです。